

東京経済大学大学院 経営学研究科 入学試験 (2024年度 2期入試)

課 程	修士課程
入試区分	一般入試・留学生入試
試験科目	専門科目（経済学）
出題意図	修士課程で学ぶべき経営学への応用を想定した経済学に関する学士レベルの専門的な知識を修得していること、および、それ等の知識に基づく基礎的な理解力・分析能力を問う問題である。
解答例	<p>解答例を公開することは、受験生を特定の解答に誘導し 筆記内容が画一的になる恐れがあり、筆記試験が意図する知識・思考力・表現力・創造力等の把握を困難にするため、解答のポイント（採点基準）のみを公表しております。</p> <p><解答のポイント（採点基準）></p> <p>『大学院募集要覧』記載の「参考文献」を念頭に置き、主に以下の点を評価対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 設問の内容を把握できていること。(2) 専門分野（経済学）に関する学士レベルの専門的な知識を、上記「参考文献」の学習を通じて、修得できていること。(3) 上記「参考文献」で学習した知識と設問との関係性を明確に認識できていること。(4) 設問に対して論理的に解答できていること。(5) 上記の諸点を無理なく読み取れる文章を作成できていること。

※ 公開している入試問題等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

大学院経営学研究科・修士課程

入学選考試験問題
(1科目・2題:試験時間90分)
【10:00～11:30】

2024年 2月19日実施
東京経済大学大学院
経営学研究科

【経済学】 ※ 以下の問題1・問題2の両方とも解答しなさい

問題1については問題1の解答用紙を、問題2については問題2の解答用紙を、必ず使用のこと。

問題1 以下の問1と問2の両方に答えなさい。

問1 ギッフェン財とは、どのような財か、具体例をあげて説明しなさい。説明にあたり「価格下落」、「所得効果」、「代替効果」の用語を必ず使用すること。これら用語を使用するとき、用語に下線(アンダーライン)を引くこと。

問2 独占企業の逆需要曲線が $p=2500-5q$ で、総費用曲線(TC)が $TC=5q^2+100q+20$ で与えられている。ただし、 p : 価格、 q : 数量 とする。

- (1) 独占企業が利潤を最大にするときの価格と生産量を計算しなさい。
- (2) 独占企業が利潤を最大にするときと、社会的余剰を最大にするように政府が介入するときで、社会的余剰の大きさはどのくらい変化するか、計算しなさい。

問題2 以下の問1と問2の両方に答えなさい。

問1 以下のマクロ経済モデルが与えられているとする。

$$E=C+I+G, \quad C=30+0.75(Y-T), \quad T=20, \quad I=200, \quad G=130.$$

ただし、 E : 計画支出、 Y : 総所得、 C : 消費、 I : 投資、 G : 政府支出、 T : 租税 とする。

また、 $Y=E$: 計画支出が総所得と等しくなる条件式が成り立つとして、以下の設問に答えなさい。

- (1) ケインジアン・クロスにおける総所得の値を求めなさい。
- (2) 政府が租税 $T=20$ を廃止して、比例所得税 $T=0.2Y$ を導入したときの乗数効果の値を求めなさい。また、そのときのケインジアン・クロスにおける総所得の値も求めなさい。

問2 IS-LMモデルに関する以下の設問に答えなさい。

- (1) 流動性の罫について説明しなさい。
- (2) 流動性の罫における財政支出拡大の効果と名目貨幣供給拡大の効果についてそれぞれ論じなさい。